



折戸小夜子 (多摩の風)

1. 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために
2. 多摩センターバス停の熱中症対策を

問 多摩市の高齢化率は29.3%。団塊の世代が後期高齢者となり、高齢者全体に占める割合は61.0%で、一人暮らし世帯は13,000世帯を超え、超高齢社会の第2ステージに入っている。高齢者施策の成果と達成度の数値化の実態を伺う。

答 要介護認定率は15.9%で都内最も低い状態である。健康寿命は男性82.81歳、女性84.31歳と都内で上位を維持している。地域の高齢者の通いの場や介護予防事業への参加者数も増加傾向にある。今後も定量的な指標と住民の実感値の両面から計画の進捗を検証していく。

問 多摩センターバス停8番はバスを待っている人々に当たる西陽が半端でなく、熱中症の懸念があり、今夏の酷暑を避けるために①ベンチを西陽が当たらない位置に設置する。②柱と柱の間に簾のような日除けを設置する等を提案するが、見解を伺う。

答 駅前空間の利便性向上策の検討を市だけでなく、東京都や事業者とも検討していく。



しらた満 (青空りっけん)

1. 多摩市の将来像について
2. 多摩市の学校教育の充実にむけて

問 多摩市政情報誌には、地域の核となる医療拠点の確保は重要とある。厚生荘病院の閉院と移動手段確保と日医大永山病院建替え白紙撤回等、課題の認識を問う。

答 医療提供体制の最適化と必要な医療の確保を進める。

問 東京都は「多摩のまちづくり戦略」には廃校活用のインターナショナルスクール等を誘致とある一方、「多摩市都市計画マスタープラン」では南野2丁目地区は学校用途拡大とある。実際にインターナショナルスクール学校ができた場合の功罪を問う。

答 内容を整理し見直しについて検討し課題を整理する。

問 学校の衛生や安全等は学校設置者の市長の責任と法律で定められている。小学校体育館エアコン設置の進捗状況を問う。

答 遮熱シートの検証と税収や財源等総合的に判断する。

問 給食センター老朽化で突然の故障等でお弁当の持参や給食弁当にならないように早期の建替えについて問う。

答 万が一にもストップしないよう早期建替えを進める。



大くま真一 (日本共産党)

1. 貝取学童 縮小移転ではなく充実を
2. 住まいは人権 住宅確保に支援を
3. ミニバス存続・ベンチや屋根設置を

問 貝取学童の縮小移転計画は面積が半分以下で最低基準ギリギリまで狭くなっている。充実こそ必要ではないか。

答 縮小の意図はない。

問 縮小だ。子どもや保護者の意見聴取が必要ではないか。

答 保護者会で説明させていただいた。

問 こども基本法、国の設備・運営の基準、運営方針、市の条例にも「子どもが意見を述べ、参加すること」が明示されており不適切。意見聴取を行うべきではないか。

答 学童の運営の中で子どもたちの意見を把握している。

問 過去の議会答弁でも「空き教室利用の学童クラブをつくる際には子どもの意見を反映させる」と言っている。いつ方針が変わったのか。一貫性はあるのか。

答 一貫性はある認識だ。

問 方針や条例には「基準を引き上げに努める」、「最低基準を理由に現況を引き下げてはならない」となっている。縮小はその趣旨に反しているのではないか。

答 学校の中で安全に学童保育を行うことを目的としている。



岸田めぐみ (ネット・社民の会)

児童・生徒への性暴力を無くすために

問 学校における児童・生徒への性暴力の認識を伺う。

答 「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が示す定義は児童・生徒間も同様であり、望まない性的な行為は性暴力に当たると考えている。

問 性暴力が起きないための取組みを伺う。

答 教職員等に対しては3ない運動プラスの徹底を図り、児童生徒に対しては生命の安全教育を実施している。

問 性暴力に関して学校が連携できる関係機関を伺う。

答 学校の対応について指導・助言を行う教育委員会や児童・生徒の心理的なケアを行う教育センター、他にもこども家庭センター、児童相談所、警察が挙げられる。

問 性暴力がなく安心して通える学校にしてほしいとの子どもの願いに対して答えていただきたいが、いかがか。

答 教員だけが性暴力防止策を取るのではなく、子どもの学び、地域や保護者の理解と協力も必要だ。どのような学校づくりをしたいか、子どもと教員、地域や保護者と共に考えながらより良い学校づくりを進めてまいる。

